

望ましい学校事務の未来像を求めて

～学校事務改善をめざした共同実践の展開～

福島県公立小中学校学校事務研究協議会 研修委員会・研究委員会

第28回福島県公立小中学校学校事務研究大会田村大会の開催にあたり、今大会のねらいと課題について提起いたします。

大会テーマ「望ましい学校事務の未来像を求めて」は、平成6年に策定された第三次長期研修計画により、学校事務の改善をめざす学校事務職員の先進的な職務内容とその機能を明らかにすること、並びに学校事務の望ましい未来像はどうあるべきかを実践を通して追求するために設定されました。

策定から12年、この間における教育環境の変化や様々な教育改革の施策は、私たちが担う学校事務に大きく作用し、県事務研でも学校事務を共同で実践していくことや学校事務職員が専門的かつ広範囲な学校事務へ柔軟に対応するなどの提案から、常に時代に即した望ましい学校事務の創造をしてきました。さらに、私たちはこの研究大会を中心とし、学校事務の進歩が学校の改善にとって重要な役割を担うことを確信し多くの提言・協議を重ねてきました。いよいよ大会テーマの最終年度を迎え、これまでの研究大会の成果と12年間の策定結果を検証し、第四次長期研修計画へと受け継いで行きたいと思っております。

今日の学校は児童生徒の基礎学力の向上はもちろん、豊かな心を育成するために体験活動や創意工夫を意識した授業を展開しています。同時に、少人数教育の推進や連携型中高一貫教育など国・県の教育諸機関においても新しい教育改革プログラムが推進され、新しい時代にふさわしい人材育成が図られています。これらを達成・支援するための学校づくりとして、私たち学校事務職員は「児童生徒が楽しく安心して学べる学校づくり」「地域に開かれた信頼のある学校づくり」に積極的な取り組みをしなければなりません。そのためには共同実践を深める観点から、全教職員・教育委員会等の他職種、そして保護者・地域との結びつきを一層強め、学校現場が抱える問題・課題を教育行政のプロとして条件整備をしていくことが、今後の私たちに与えられた責務であると考えます。今大会においても私たち学校事務職員が学校運営へ積極的に参画することイコール、学校事務職員が「地域の学校」のプランナーやコーディネーターとしての役割を担っていくという意識を持って学校事務職員像を模索していきたいと思っております。

これからの展望として、学校と学校事務職員の置かれている状況を踏まえ、学校事務改善をめざした共同実践の展開をより具現化するためのマネジメントが必要とされます。そして様々な場面において学校運営を支援していくよう要請されます。学校事務職員はこれらに応えるべく「データの収集と整理」「企画立案、提言」「情報発信と広報」など、主体的職務の遂行と資質能力を磨きながら、これまでの学校事務を一段高めた学校経営事務に参画していかなければなりません。

今年3月、新市となった田村市でおこなわれる大会にふさわしく、新たな決意と創意、情熱をもって2日間の熱心な参加を期待します。

第1分科会

「これからの学校事務をどのように構築するか」

～めざす学校事務職員像～

昨年度の伊達大会第1分科会では、第7次定数改善計画の一環として県内に加配された学校の実践や、支部研究において共同実施を事務部門の強化・組織化として捉えた研究を紹介しました。

本年度も継続的な企画として岩手県公立小中学校事務職員研究協議会より講師をお招きしました。岩手県事務研で行っている共同実施に関する研究の取り組みを紹介していただき、これからの学校事務をどのように構築していくかをご講義いただきます。

次の視点での参加を期待します。

〔協議の柱〕

- 1 共同実施に関する研究を共有し、メリット・デメリットを検証する
- 2 共同実践や共同実施を事務部門の強化・組織化と捉え、望ましい学校事務職員像を探る

第2分科会

「子どもの学びを支援する学校づくりと『学校』事務職員の役割」

～教材・教材費の見直しを中心に～

福島地区事務研では、「学校会計の見直し」について、第24回棚倉大会では「情報公開と学校会計」、第26回喜多方大会では「教育課程編成と学校会計」という内容で報告してきました。今回は教材・教材費の見直しの課題と事務職員の役割についての問題提起を行います。

問題提起を手がかりに、子どもの学びを支援する学校づくりと「学校にいる」事務職員としての役割についてコメンテーターの皆様と共に研究協議を行います。

〔協議の柱〕

- 1 学校会計の見直しとその方策について
- 2 学校事務職員が授業に直結する教材費への関わり方について
- 3 子どもの学びを支援する「学校づくり」における学校事務職員の役割

第3分科会

「南会津5年間の実践を通しての提案」

～県・支部、一体となった研修でめざす会員のスキルアップ～

南会津地区では、スモールステップの原理で基礎基本を固め、最終的には学校事務職員としての問題解決能力の獲得までをめざすとした5年間の研修計画が平成13年度策定されました。今回の発表でこの研修計画を実践してきたことで見えてきた課題を整理します。スキルアップをはかるために県と支部事務研の連携をどのように進めていくか参加者とともに協議し、発表の成果は今後南会津地区事務研で策定する第三次研修計画の礎にしたいと考えています。

〔協議の柱〕

- 1 支部研修計画による会員のレベルアップと啓発
- 2 県事務研の長期研修計画とリンクした支部研修の在り方
- 3 支部事務研をベースとした望ましい共同実践の方策

第4分科会

「学校事務の分野から提案するエコロジー・リサイクル」

～いま わたしたちにできること～

全国の自治体における長期の財政的なひっ迫は、教育予算の減という形で学校にも大きな影響を与えており、予算の効率的な執行が求められています。岩瀬地区事務研では環境保全に視点をあつた「エコロジー・リサイクル」が事務改善と共に予算執行の効率化につながるのではないかとし、実践してきました。今回の発表は『リサイクルかわら版』を通しての教職員への啓蒙、地区内小中学校の『環境会計簿』『グリーン購入調査』『廃棄備品の再生』など二年間の実践報告が行われます。

〔協議の柱〕

- 1 掲示物を通じた教職員・児童生徒への啓蒙と実践
- 2 予算執行上の問題を追及するばかりでなく、環境保全という社会的要請の視点に立つた実践
- 3 廃棄備品を学校事務職員のアイデアで再利用する取り組みについて

第5分科会

「学校事務職員に求められること」

～教育課題を改善・解決させるために～

「新しい時代に新しい学校作りを」の考えのもとに、今、学校の自主性・自律性の確立が求められています。そして、学校運営を改善するためには、学校を組織として機能させる「組織マネジメント」の発想が必要とされています。それには校長だけでなく、全職員が相互理解のもとに学校運営に参画することが求められています。特に学校事務職員は、教頭と違った立場で校長を補佐し、「教育」と「経営」の原点をそろえ目標軸をあわせる役割が求められています。

この分科会では、学校事務職員として必要な「学校組織マネジメント」の考え方を理解し、体験演習を行いながら、現在学校のかかえる課題の改善・解決策を考えます。

〔協議の柱〕

- 1 学校組織マネジメントの発想を学校現場に導入するために必要とするものは何か
- 2 「開かれた学校」を推進するために学校事務職員はどのように行動すべきか

全体研修会（2日目）

テーマ「学校事務職員の職務と専門的力量的の研究と今後の展望」

静岡大学教育学部附属教育実践総合センター助教授の藤原文雄先生より講話をいただきます。

藤原先生は「今までの制度論的アプローチによる事務職員論からは見えてこない、学校事務職員の成長度や悩み等を理解するために新しい制度を構築しようという『職員論』の立場に立つた研究をする。」ということから「ライフコースアプローチに基づく学校事務職員の職務と専門的力量的に関する実態調査研究」をまとめられ、その成果を「学校事務誌」（学事出版）に連載していました。昨年、福島大学学校事務職員研修講座で講義していただいたのは記憶に新しいところです。また、今年も学校事務職員講座Aのシンポジウムのパネラーとしてお話を伺うことができました。

この全体会では、静岡県の学校事務や学校事務職員の特徴と福島県の学校事務職員の現状と課題との違いについて理解を深める講話をいただきます。